



地域と連携した保全活動による

ミズバシヨウ群生地の再生 中山山希少個体群保護林

はじめに

中部森林管理局飛騨森林管理署では、岐阜県高山市庄川町に位置する中山山国有林を管理しています。今回は、地域の関係者と連携して、ミズバシヨウ群生地の再生に取り組んでいる事例をご紹介します。

中山山国有林の自然環境

中山山国有林は、標高約1,350mの山岳地帯に位置し、スギ・ヒノキ・カラマツからなる人工林の他に、ブナやミズナラ、トチノキなどの広葉樹の天然林が成立する自然豊かな森林です。さらに、林内には、岐阜県の天然記念物に指定されているミズバシヨウの群生地があり、春になると白く美しい花が一面に咲き誇り、訪れる人々の目を楽しませてくれます。

ミズバシヨウの見頃は4月中旬から5月上旬で、整備された遊歩道を歩きながら、湿原の中で咲く花々を間近で観賞することができます。



ミズバシヨウ

ミズバシヨウ群生地の保全活動

中山山国有林の群生地は、日本におけるミズバシヨウの分布南限の一つとされており、ミズバシヨウの密度が高いことから、昭和51年に岐阜県の自然環境保全地域特別地区に指定されました。以降、自然環境の保全が進められてきましたが、シカやイノ

中部森林管理局 飛騨森林管理署

管内概要

所在地	岐阜県高山市西之一色町三丁目747-3
区域面積	332,678ha うち森林面積 308,668ha うち国有林面積 116,948ha
関係自治体	2市1村(飛騨市、高山市、大野郡白川村)

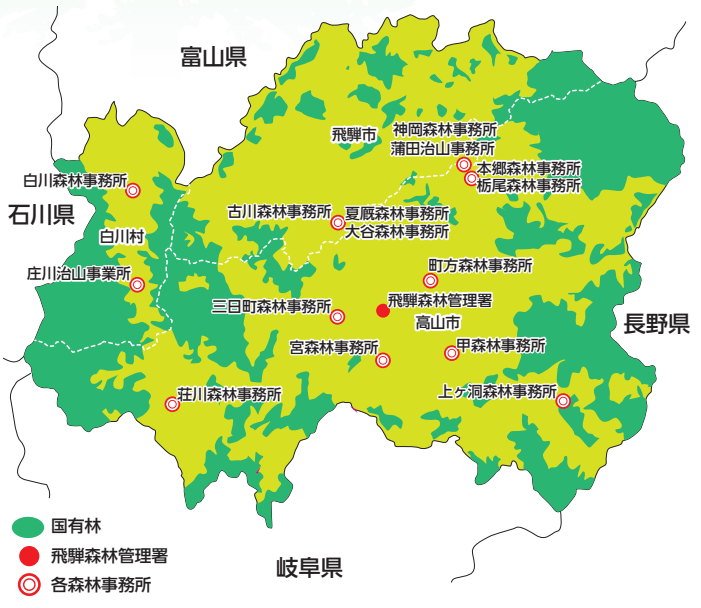
飛騨森林管理署は、東に「日本の屋根」ともいわれる飛騨山脈(乗鞍岳、御嶽山等)、西に白山などの3千m級の山々に囲まれた宮・庄川流域の2市1村に広がる国有林約117,000haの森林を管理しています。

管内の森林は、ブナやミズナラ等の天然林が56%、カラマツ・スギ・ヒノキ等の人工林が31%、その他山岳地帯等が13%を占めています。

この地域の森林のうち、99%が保安林に指定されており、土砂流出防止等の国土保全や、水源涵養による水資源の貯留等、重要な公益的機能を果たしています。これらの森林は、日本海側の石川県・富山県、太平洋側の岐阜県・愛知県の主要河川の源流地域に位置しています。

また、飛騨山脈、御嶽山、白山などの山岳地域は、貴重な動植物の生息地域であるとともに、観光や登山などの森林レクリエーションや、高地トレーニングの場としても広く利用されています。

さらに、世界文化遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」で有名な「白川村」には、霊峰白山の山岳地帯に崩壊地や荒廃溪流が点在しており、村の森林の半分を占める国有林において溪間工や山腹工事などの治山事業に取り組んでいます。



シシの生息域の拡大により、平成18年頃からミズバショウの葉や根に食害が確認されるようになりました。平成22年頃には、深刻な食害により群生地のミズバショウは激減していききました。



深刻な食害を受けたミズバショウ

この課題に対し、平成23年から岐阜大学、高山市、地元住民、飛騨森林管理署の4者が連携し、群生地へのシカやイノシシの侵入を防ぐ電気柵の設置を継続的に実施しています。さらに、平成30年には、飛騨森林管理署が、南限に分布する貴重なミズバショウ群落を保護・管理するために、群生地を「希少個体群保護林」に設定しました。これにより、多様な湿地植物が共生する豊かな生態系の保全が一層強化されています。



山中峠の湿原での電気柵設置作業



林内に設置した電気柵

こうした地域と関係機関が連携した継続的な取組や保全活動の結果、柵内のミズバショウの個体数は、増加傾向で推移し、現在では再び多くの花が咲く場所となっています。



地域ぐるみの保護活動により回復したミズバショウ

研究と環境教育の推進

このほか、被害を受けたミズバショウ群生地の再生に向けて、岐阜大学応用生物科学部を中心に、生育状況の調査や人工移植の研究が進められています。また、地元の荘川小学校では、種子の採取・育成・植え付けなどを通じた環境教育が行われています。

令和6年には、種から育てて当地に移植したミズバショウの開花が初めて確認され、成果が着実に現れ始めています。



地元の小学生がミズバショウを育成

おわりに

山中山のミズバショウ群生地は、本来の自然が有する美しさと、多くの関係者の努力が調和して保たれている貴重な場所です。今後とも、地域の方々と連携しながら、希少な自然環境の維持、保護・管理の取組を進めてまいります。

春の訪れとともに咲き誇るミズバショウの花々や、美しい風景を見に、ぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。